

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.175

2014/06/22

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## ミツガシワもトキソウも再生・・・

南部湿原の獣害防止対策成果(14/06/08)

2010年5月南部湿原をおおいつくすはずだったミツガシワは壊滅状態で、湿原際の数株が開花しただけでした。当初のシカやイノシシの食害を観察して数万年の歴史を生き抜いてくる中では、このような食害に遭ったことも何度かあり、それをくぐり抜けて今日があるのだろうとたかをくくっていました。しかし2010年の状態はこのままでは復元不能と考えざるを得ませんでした。湿原内には、実生を少し大きくしたような株が散在しており、獣害を防止すれば復元が可能だろうと考え2011年4月から防獣ネットを、2012年からはトタン板を設置することとなりました。この作業は設置にとどまらず、設置中の点検・降雪に向かっては撤去、消雪直前の再設置作



降雪の中でのネット・トタン板の撤去作業(13/12/21)



残雪の中でのトタン板設置(14/02/01)

業をこれからも継続してゆく必要があります。このような日々の保全活動の結果、今年は見事な復元を確認出来る状態になってきました。6月毎月実施している定期調査に南部湿原に入って我が目を疑いました。先ずトキソウの開花した群落と若芽の大群落です。もちろんミツガシワも足の踏み場に困るほど復元しています。2011年からの防獣対策の成果です。今ササユリのシーズンを迎えています。今期の開花数は、防獣のための金網掛けのタイミングが人手不足でずれたため非常に少ない状態となりました。来期は4月末から5月初旬に集中して金網掛け作業を実施したいものです。



連日四季の森コース整備作業

PHOTO BY TOMIOKA



PHOTO BY T.HASHIMOTO

PHOTO BY KUBOTA

6月に入って会員と森林キーパーで連日四季の森コースの保全作業がつづいています。遠方から間伐材を運搬しての作業でこれまでに無い歩きやすい整備が来ています。

このような保全作業は森林キーパーなくしては考えられない作業です。今年から月2回の保全作業日を設定しています。その趣旨は、森林キーパーが無くなったとき、多様な保全作業は会員や一部の協力団体で実施しなくてはならないため、その予備実践ということもあります。保全活動による成果は次々明らかになっていますが、それには何よりも継続した保全活動が必須です。

今年も地元の永原小学校・西浅井中学校の児童・生徒諸君が「山門水源の森」での自然学習と保全活動に協力してくれています。



西浅井中3年生の林床整備作業

今年も地元の永原小学校・西浅井中学校の児童・生徒諸君が「山門水源の森」での自然学習と保全活動に協力してくれています。



永原小6年生の石の運び上げ作業

会員による保全活動の日も限られており、広い森で実施出来るのはその一部です。そんな中、子どもたちの保全作業への手助けは非常に有り難いことです。彼等が少しでも活動中に、自然から学べるようにと心配りはしているのですが、彼等にどう響いているかが気がかりなところですが、森の各所で獣害により希少種が危機的な状況になりつつあり、それらを保護するという点から「付属湿地」の重要性が増しています。一時的な遺伝子の貯蔵所ということになります。ここでは日々除草が行われていますが、それが功を奏して希少種が分布を広げています。トノサマガエルの増加が気がかり。



全面に分布を広げたモウセンゴケ



分布を広げているサワラン

「付属湿地」の重要性が増しています。一時的な遺伝子の貯蔵所ということになります。ここでは日々除草が行われていますが、それが功を奏して希少種が分布を広げています。トノサマガエルの増加が気がかり。